総合金融グループとアカデミアで挑む
社会課題解決への価値創造

2025年3月19日

株式会社 三井住友銀行　社会的価値創造推進部
京都大学　成長戦略本部　SMBC京大スタジオ
木村 陽介

SMBC SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION

Copyright © 2025 Sumitomo Mitsui Banking Corporation. All Rights Reserved.

総合金融グループ×アカデミア
SMBC京大スタジオとは？

SMBC京大スタジオの開設趣旨

SMBC 三井住友フィナンシャルグループ

社会的価値の創造
「幸せな成長」への貢献

産業界のハブとなる金融グループ
国内外におよぶ広範なネットワーク
社会的価値創造プロセス

×

京都大学 KYOTO UNIVERSITY

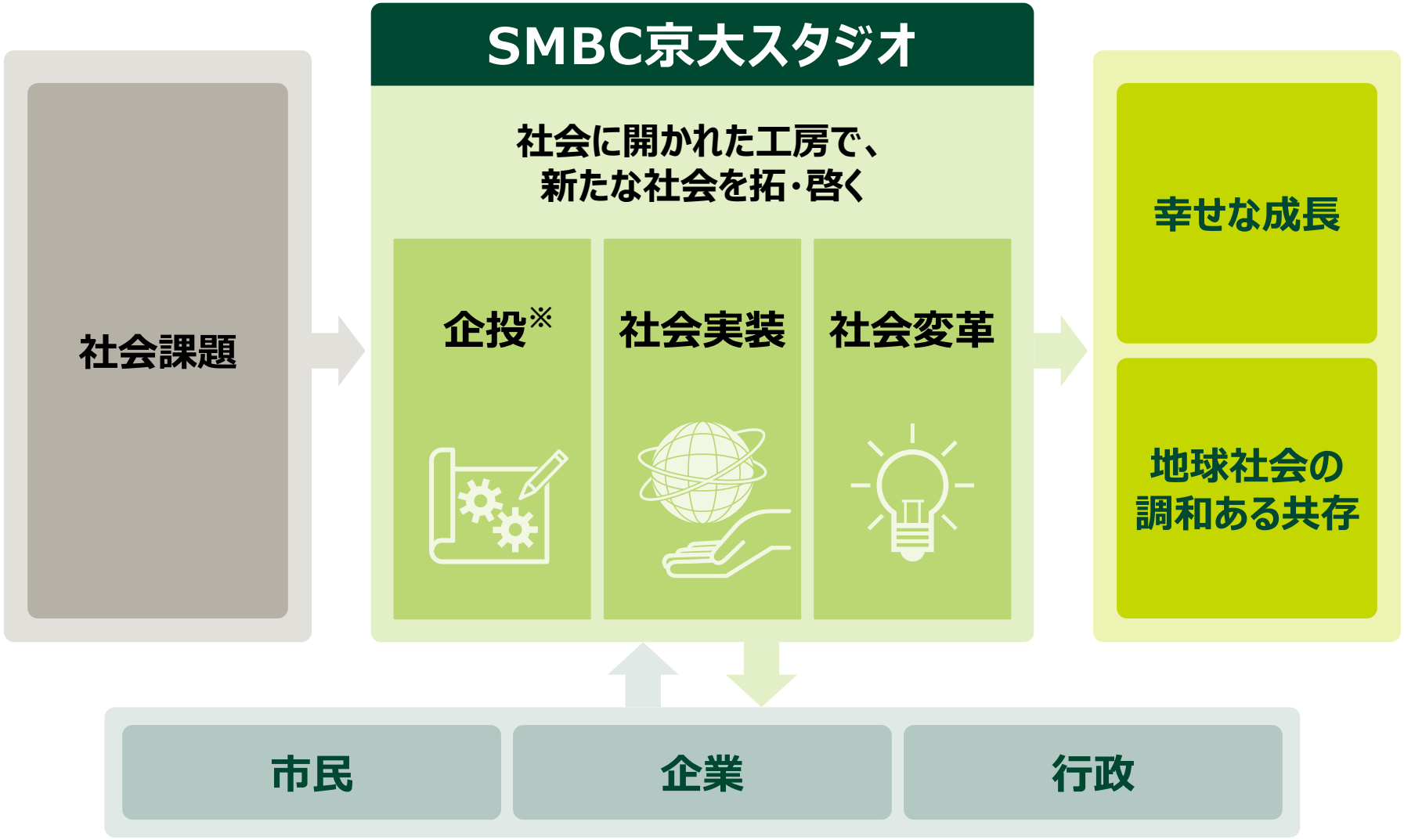
地球社会の調和ある共存に貢献
研究成果の社会への還元

自由の学風を基盤とする研究大学
世界的に卓越した知の創造
総合大学としての多様な研究領域

SMBC京大スタジオ

産業界とアカデミアが連携し、解決すべき社会課題を特定、
社会的価値創造に取り組む工房

SMBC京大スタジオのコンセプト



※ 哲学者ハイデガーが用いた概念でDesignとProjectの両方の意味を持つ「ありたい未来に向け、自分ごととして率先して行動する」意味を込めている

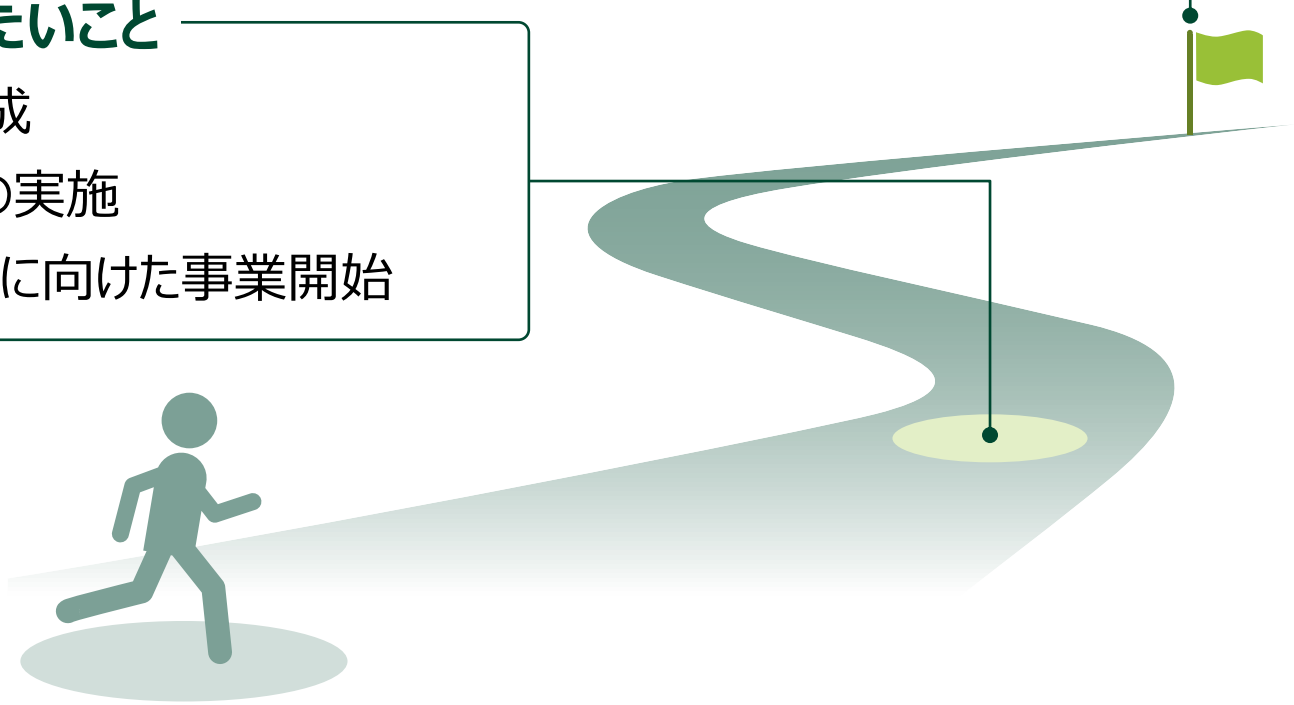
SMBC京大スタジオの目指す姿とマイルストーン

目指す姿

1. 社会課題解決に向けた**事業創出**
2. 社会課題解決に取り組む**人材の輩出**
3. 社会的価値創造による**好循環の実現**

3年後に実現したいこと

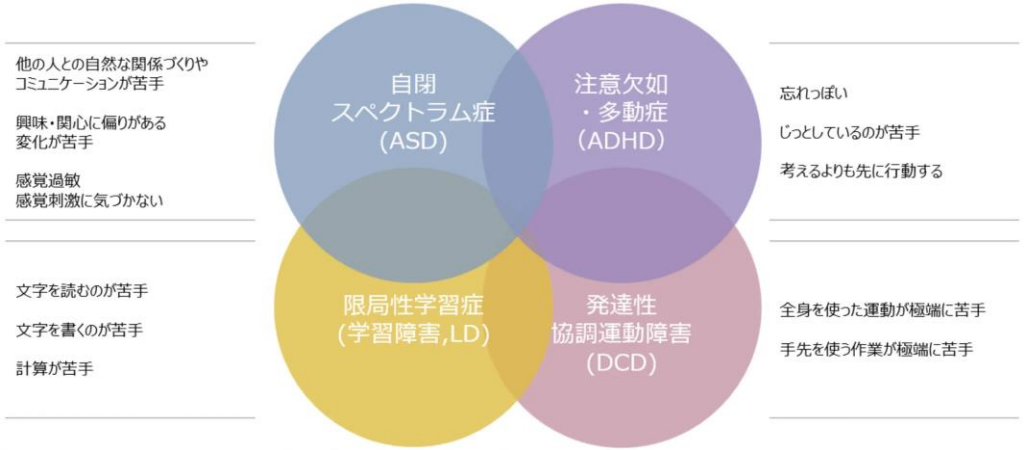
1. 共創の場の組成
2. 社会との対話の実施
3. 社会課題解決に向けた事業開始



進行中のプロジェクト

(1) 発達障害特性がある人材の就労における能力発揮支援

<社会的価値>
・誰もが自分らしく生きられる
・得意/不得意の凸凹が当たり前に受け入れられ支えあえる

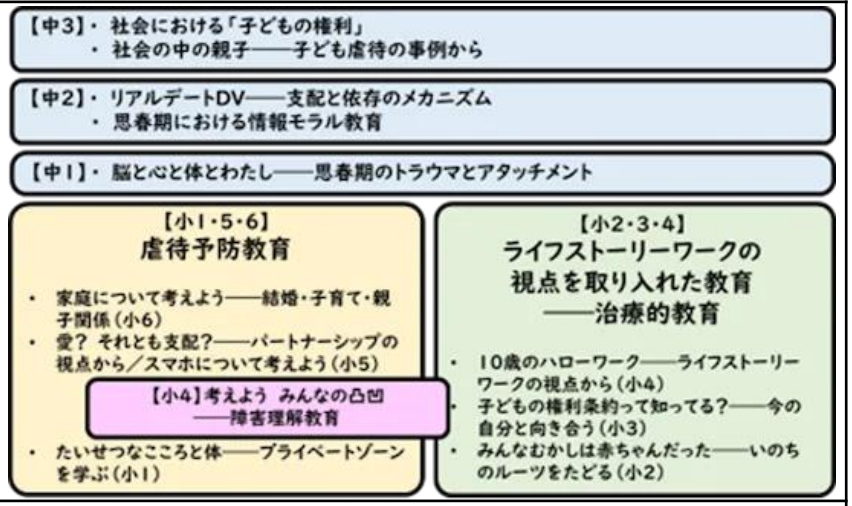
取り組む社会課題	発達障害特性がある人材は、自己の客観視やコミュニケーションが苦手で、メンタルヘルスの不調により就労不能に至ることが多く、他の障害種別と比較し就職率が低く、非就職者数は２４０万人と推計されている 
アプローチ	高度・先端IT領域における業務・作業を対象に、発達障害特性のある人材が活躍するための環境整備の手法を取りまとめ、支援体制・ツールを整備し、普及・啓発する
実施事項	• 高度・先端IT領域の作業におけるパフォーマンス・マネジメントとの関係による影響を測定 • 国内外の事例の調査 • 実務環境でのマネジメント手法の効果的な運用に係る支援体制・ツール等の整備
プロジェクト代表	京都大学大学院医学研究科 准教授 義村 さや香 日本総合研究所 創発戦略センター シニアデベロップメント マネジャー 木村 智行

進行中のプロジェクト

(2) 貧困・格差・虐待の連鎖を乗り越える教育アプローチの研究開発と普及

<社会的価値>
・子どもたちがお互いに尊重し合い、いきいきと学校に通っている
・学校の先生方が教師という職業にやりがいを持っている

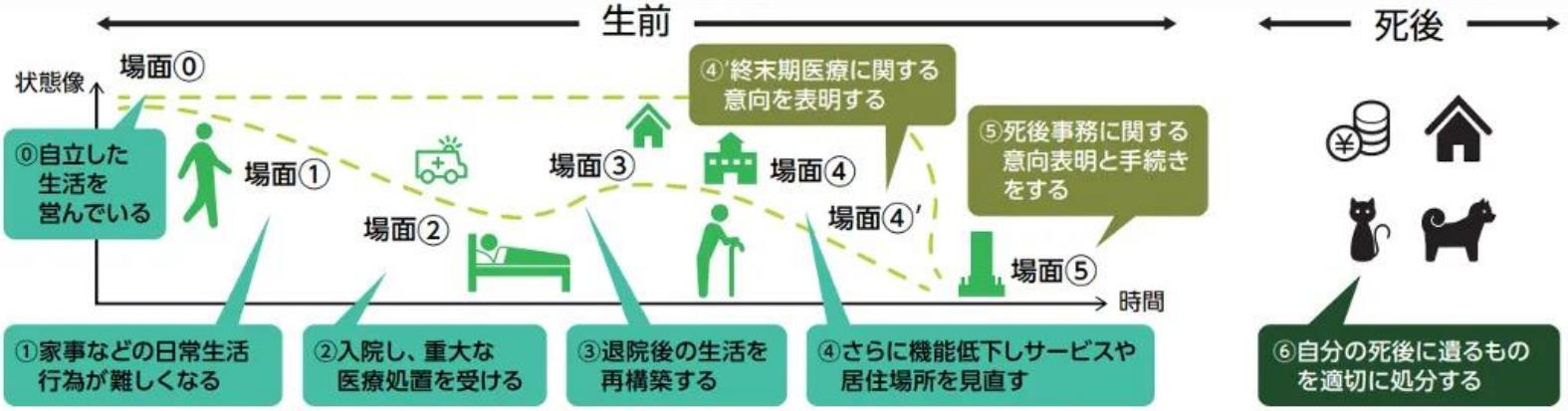
取り組む社会課題	• 親の所得や学歴といった子ども自身によらない要因が、子どもの学力獲得や教育水準に影響を及ぼし、子ども自身の階層や職業を決定され、結果、「貧困の連鎖」が発生している • また、虐待と貧困も関連があり、虐待を受け大人になると自分の子どもに繰り返す傾向がある
アプローチ	学校教育から「貧困の連鎖」を断ち切る。具体的には、子どもたちが貧困や格差、虐待といった人生の困難を乗り越えるために必要な知識や価値観を身につける「『生きる』教育」を実践
実施事項	• 「『生きる』教育」の重要性を明らかにし、拡げるための基礎研究 • 教員及び学校現場へ普及させるための試行とコンテンツ及び体制整備
プロジェクト代表	京都大学大学院 教育学研究科 教授 教育実践コラボレーション・センター 西岡 加名恵 日本総合研究所 創発戦略センター スペシャリスト 山本 尚毅



進行中のプロジェクト

(3) 誰もが生前・死後の尊厳を保つための持続可能な身じまい・意思決定とその支援

<社会的価値>
・高齢者が、人生の身じまいの段階で過度に多くの自己決定を強いられない
・社会における共助がやせ細る中、高齢者を支える「自助・公助・共助」が程よくバランス

取り組む社会課題	• 近年、高齢者の人生の身じまいに関して、意思決定が必要なことがますます増加 • 意思決定を支援してくれる家族が減少、尊厳を保つ意思決定の支え方が問われている 
アプローチ	学際的な研究により問題の全容を捉え、社会に問題意識を共有
実施事項	• 市民との対話により、個々人の生前・死後についての価値観を収集する • 先行研究の調査、様々な分野の専門家との対話により、課題解決の糸口を探る • 社会の誰しもが身じまいを自分事として考えるきっかけとなる情報発信を行う
プロジェクト代表	京都大学大学院文学研究科 教授 児玉 聡 日本総合研究所 創発戦略センター シニアスペシャリスト 沢村 香苗

研究テーマ公募の実施

SMBC京大スタジオ
研究テーマ公募

募集期間　2024/12/13(金) ～ 2025/2/28(金)

募集内容

現代の社会課題の解決を目指した全ての研究提案が対象。
文理を含む学問分野や解決へのアプローチ方法は問わない。

こんなテーマも大歓迎
・アジアやグローバルの課題
・人文社会学からの切り口

共同研究型
コ・クリエーションコース

支援金額：1,000～3,000万円/年
期間　　：2～3年

大手シンクタンクの日本総合研究所とともに、
共同事業計画を策定。支援期間には連携して
研究を進めながら、社会実装を目指すコース

助成金型
ディスカバリーコース

支援金額：最大500万円/年
期間　　：1年

支援期間を通して、社会的価値の創出に繋がる
仮説についてフィジビリティスタディを行い、
共同事業構想に繋がるシーズ発見を目指すコース

なぜ総合金融グループが
このような取組をするのか？

基本方針

Plan for Fulfilled Growth

VISION

最高の信頼を通じて、お客さま・社会とともに発展するグローバルソリューションプロバイダー

質の伴った成長

社会的価値の創造
「幸せな成長」への貢献

経済的価値の追求
Transformation & Growth

経営基盤の格段の強化
Quality builds Trust

社会的価値の創造に取組む理由

社会課題の拡大・深刻化

グローバルでの経済活動優先の歪みが、深刻な社会課題として顕在化

- 環境
- DE&I・人権
- 貧困・格差

日本においては「失われた30年」の長期低成長に陥り、様々な社会課題が深刻化

- 少子高齢化
- 日本の再成長

企業を測る”物差し”の変化

各ステークホルダーにとって、社会インパクトが企業の価値を測る”物差し”に加わる

投資家	社会課題に対する取組状況の開示を要求
顧客	社会課題解決に繋がる取組・商品を選好する傾向が強く
従業員	自身の業務が社会に与える意義が重要なモチベーションに

（続き）

社会は我々が事業を営む上での礎。
社会の持続可能な成長なしに、企業の持続的成長は有り得ない

社会課題を起点に、金融・非金融に拘らずお客さまの課題に応えることで、
社会に貢献し、経済的価値と社会的価値の双方の実現に取組み

「幸せな成長（Fulfilled Growth）」の時代の実現へ

経済的価値と同時に、
同レベルで
社会的価値の創造を追求

「物差し」の変化を先取りし、
世の中の資金が社会的価値
創造へと向かう流れを作る

これまで見えてこなかったお客さまの課題や、ビジネスとしての
新たな切り口の発見にも繋げる

（ご参考）5つの重点課題・KPI

5つの重点課題、10のゴールに基づき、社会的価値創造に向けた取組を着実に推進中

		KPI	FY23実績
環境	トランジションの支援を通じた脱炭素社会の実現 自然資本の保全・回復への貢献	サステナブルファイナンス取組額 50兆円 (FY20-29)	24兆円 (FY20-23)
DE&I・人権	従業員が働きがいを感じる職場の実現 サプライチェーン全体における人権の尊重	エンゲージメントスコア 70以上維持	72
貧困・格差	次世代への貧困・格差の連鎖を断つ 新興国における金融包摂への貢献	マイクロファイナンス提供者数 +80万人 (FY22比)	+15.3万人
少子高齢化	人生100年時代への不安解消 人口減少社会を支える利便性の高い基盤の構築	AM・外貨残高 18兆円 (FY25末時点)	17兆円
日本の再成長	企業のビジネスモデル変革支援 イノベーション創出・新たな産業の育成	スタートアップ向けの投融資額 1,350億円 (FY23-25)	792億円

全員参加を通じた社会的価値創造の取組加速

ボトムライン利益の1%を目処とする100億円の経費枠等を設定し、社会的価値の創造に本気で取り組む

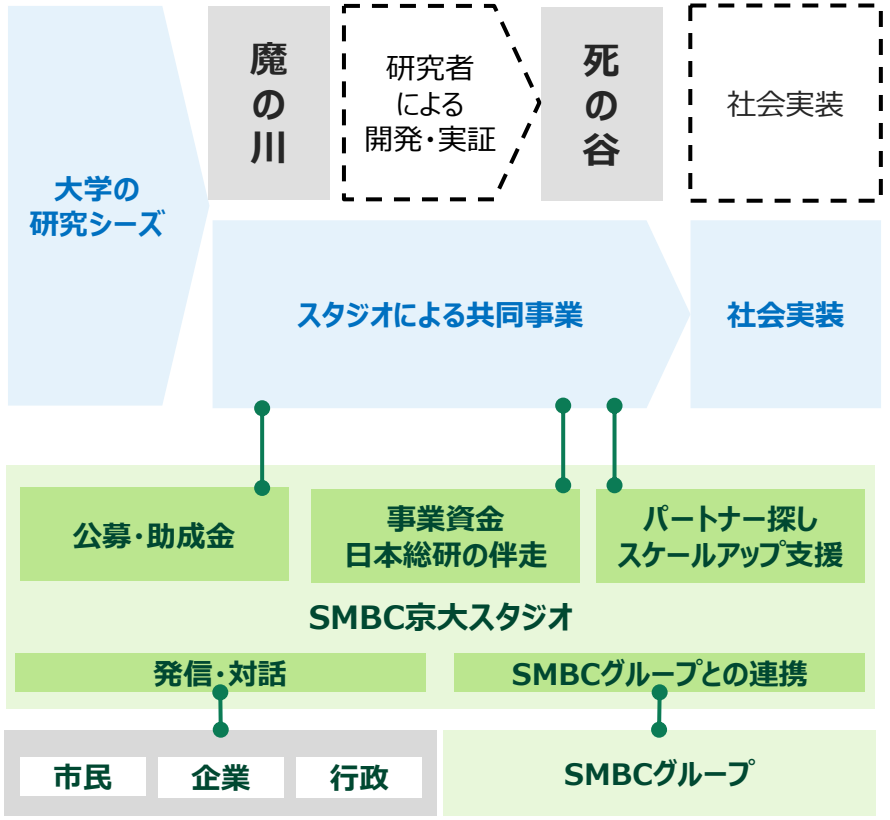
Copyright © 2024 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

社会的価値創造に向けた
新たな資金の流れ

社会的価値創造に向けてお金を回す枠組み

社会的価値の創造に向けて“お金”を回す枠組の構築に取り組む

SMBC京大スタジオの役割



社会課題解決に“お金”を回す枠組

グリーン預金
再生可能エネルギー等の普及
FY23残高 **20億ドル**

ソーシャル預金 24/4
貧困・格差等の社会課題解決
預入金額 **750万ドル**

インパクト投資 24/4

- ✓ スタートアップ企業を対象に投資体制を整備
- ✓ インパクト投資への適応度に応じてイベント等の非資金的支援を実施

Copyright © 2024 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

ビジネスにおけるインパクト評価の活用

インパクトレポート2024～SMBCグループの社会的価値創造～参照

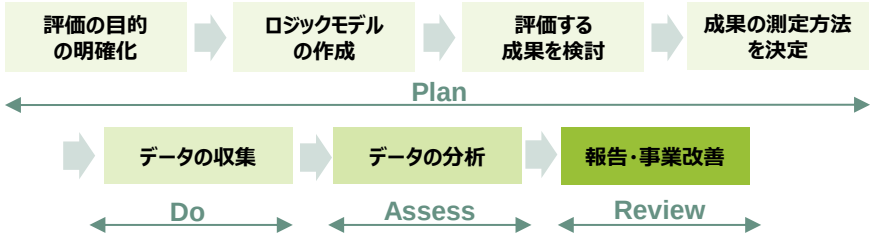
SMBCグループでは、インパクトという新たな“物差し”をビジネスにおいても活用し、社会・環境にポジティブな影響を与え、ネガティブな影響を軽減するお客さまの事業を支援しています。ポジティブ・インパクト・ファイナンスはその一例です。

ビジネスにおけるインパクト評価

- SMBCグループでは、インパクト評価を活用したさまざまな金融ソリューションを提供しています。

ポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）	資金提供先の企業が社会に与えているポジティブな影響を最大化し、ネガティブな影響を軽減するため、企業のインパクトを特定、モニタリングしていくエンゲージメントを兼ねたファイナンス手法	SMBC 三井住友銀行 日本総研
インパクトIPO支援	インパクトスタートアップをはじめ、事業の成長と社会課題の解決を両輪で目指す企業の上場を支援	SMBC日興証券
ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）	資金提供者から調達する資金を使い、行政等から委託を受けた事業者が公的サービスを実施し、成果に連動して資金提供者に利益を還元する仕組み	SMBC 三井住友銀行 SMBC信託銀行 日本総研
インパクト投資	投資リターンに加え、ポジティブで測定可能な社会的および環境的インパクトを同時に生み出すことを意図する投資手法	SMBC 三井住友銀行 SMBCベンチャーキャピタル 三井住友DSアセットマネジメント

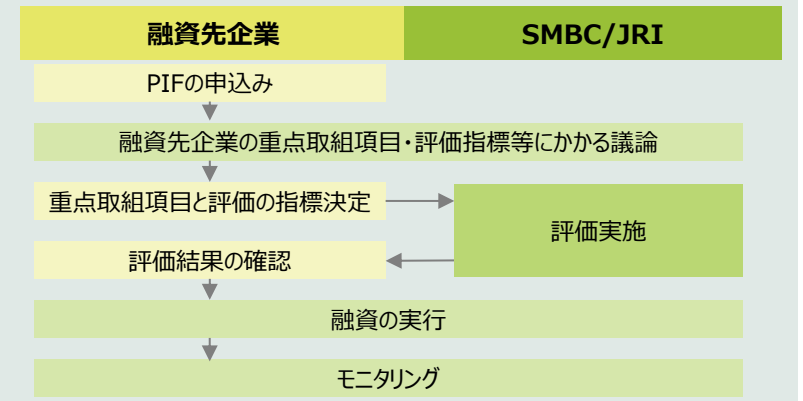
評価のフロー*



ポジティブ・インパクト・ファイナンス SMBC 三井住友銀行 日本総研

- 三井住友銀行では、PIF実施に当たり、日本総合研究所（JRI）の知見を活用し、融資先の企業活動のインパクト評価を行っています。

三井住友銀行のPIF評価の流れ



重点取組項目と評価指標の例

✓ 融資先の事業活動が環境、社会等に及ぼすインパクトを分析・評価

重点取組項目	評価指標
事業活動に伴う環境負荷の低減	売上高当たりのCO_2排出原単位
健康・安心な社会に貢献する製品・サービスの売上高拡大	健康・安心な社会に貢献する製品・サービスの売上高比率
サプライヤーのサステナビリティの推進	環境・労働・人権等に配慮したサプライヤーからの調達比率

＊ GSG国内諮問委員会 社会的インパクト評価ワーキング・グループ『社会的インパクト評価ツールセット 実践マニュアル（Ver. 2.0）』よりSMBCグループ作成

お問い合わせ

弊行は、お客さまが自由かつ自主的なご判断により、お取引いただくことを前提としております。このため、弊行が商品・サービスの利用を融資取引の条件としたり、利用いただかないことを理由に不利なお取扱いをすることは一切ございません。お取引に関してご不明な点、ご懸念、不本意な点がございましたら、以下の『独占禁止法に関するお客さまご相談窓口』までご相談ください。なお、ご相談・ご照会をいただいたことや、その内容により、お客さまが不利益を被ることは一切ございません。

「独占禁止法に関するお客さまご相談窓口」
フリーダイヤル　０１２０-７０２-０６１

※受付時間：月～金曜日9:00～17:00（土・日・祝日等銀行休業日は除く）
※お電話によるお申出が難しいお客さまは、弊行ホームページ上のWEB窓口よりご投稿ください
（https://www.smbc.co.jp/cs/abuse/）

本件に関するご質問・お問合せはお手数ですが下記までご連絡ください

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-1-2
株式会社三井住友銀行

社会的価値創造推進部
（京都大学 成長戦略本部 SMBC京大スタジオへ出向）
木村 陽介
Tel ：０７２－７５３－２２４６

ご案内

弊行は、お客さまとの間に生じた苦情・紛争の取扱いに関しまして、銀行法上の「指定紛争解決機関」として金融庁長官から指定を受けた全国銀行協会と契約を締結しております。

弊行が提供させていただいた商品・サービスに関しまして、何等かご不満な点がございましたら、弊行に直接お申出を頂くほか、同協会が運営する全国銀行協会相談室にご相談・ご照会いただくことも可能です。

ご連絡先

全国銀行協会
全国銀行協会相談室

（一般電話から）　0570-017109
（携帯電話・PHSから）　03-5252-3772